

はじめに

本報告書は、平成 29 年度に実施した予備的研究「言語障害のある中学生への指導に関する研究」を元に、平成 30 年度～令和元年度の二カ年の基幹研究（障害種別）の経過をまとめたものである。

これまでの平成 28 年度全国難聴・言語障害学級及び通級指導教室実態調査報告書（国立特別支援教育総合研究所, 2018）等から、小学校のことばの教室に通っていた児童の約 6 割が、中学校に進学後、特に支援を受けていない現状が明らかになっている。以前より中学校に言語障害特別支援学級及び言語障害通級指導教室（以下、「ことばの教室」とする。）の設置数が少ない状況にあった。また、中学生になると授業や部活動などで日々忙しくなったり、周囲の友達の目が気になったりする理由などからことばの教室に通わなくなってしまうこともある。

平成 30 年 4 月から高等学校における通級による指導が開始された。今後、切れ目のない連続した学びを実現するためには、言語障害のある中学生のニーズに合った指導・支援の内容、体制の充実が喫緊の課題である。

これまで言語障害のある中学生を指導する中学校の「ことばの教室」担当教員は、ことばの教室の経験も浅く、一人で担当することも多いため、思春期を迎えた言語障害のある中学生の指導の難しさを実感していることなどが課題となっていた。また、小学校の「ことばの教室」で言語障害のある中学生を受け入れている担当教員からは、中学生を指導するための時間の確保の難しさなどの課題が挙げられていた。

このような背景を踏まえ、言語障害のある中学生が必要としている指導・支援内容を充実させるための方策について、研究協力者、研究協力機関と協働して、本研究に取り組んできた。第 1 章では、この研究に着手するに至った背景や研究の目的、方法、研究体制などについて述べる。第 2 章では、全国の小・中学校の「ことばの教室」に実施した「言語障害のある中学生に関する実態調査」について整理した結果を述べる。第 3 章では、言語障害のある中学生及び小学 6 年生の面接調査から、言語障害のある中学生が必要としている指導・支援について考察する。第 4 章では、各地域の特色を生かした言語障害のある中学生の指導・支援の具体的な取組について紹介する。第 5 章では、本研究についての考察と今後の展望について述べる。

最後に、これまで本研究にご協力いただいた研究協力者、研究協力機関の皆様、調査にご協力いただいた全国の「ことばの教室」担当教員の皆様、インタビューに回答していただいた小・中学校の「ことばの教室」に通う児童生徒の皆様へ心から感謝する。本研究の成果が、言語障害のある中学生の指導・支援の充実に寄与し、子どもたちの暮らしが充実したものになることを祈念して、現場の「ことばの教室」担当教員、教育委員会等の皆様に届けたい。

研究代表者 情報・支援部 主任研究員 滑川 典宏